

バイオセラクリニックについて

Q バイオセラクリニックの開院はいつですか？

A 2001年8月に東京女子医科大学病院 消化器病センターの関連施設として新宿区に開院いたしました。
2011年6月に新宿区余丁町から新宿区新宿へ移転いたしました。

相談・治療を受けるにあたり

Q バイオセラクリニックで治療を受けるにはどうしたらよいでしょうか。

A まずは、お気軽にお電話ください。何もわからなくても状況にあわせて説明いたしますので、ご安心ください。治療を受けるための準備、流れなどを説明させていただきます。お問い合わせについてはこちらをご覧ください（<http://www.bio-c.jp/introduction/introduction.html#c01>）。

Q 無料相談はありますか？

A 無料相談は行っていません。

総合医療相談（15,000円[税抜]）にて医師が、提供していただいた資料を拝見し詳細なお話を伺い、患者様の現在の状況の説明や当クリニックの治療説明などを詳しく行います。そのため1時間半程度の時間を設けています。その中で、患者様の悩みを伺ったり、また、他院で受けられている治療の疑問などについてもご質問があればご説明したりしています。

無料という点では、定期的にセミナーを開催していますので、どんな医師がいるのか、どんな施設なのかお知りになりたい場合は、是非ご利用ください。

Q 総合医療相談には家族のみで行ってもいいですか？

A ご家族様のみでもご相談いただけます。可能でしたら、ご家族様、患者様一緒にご来院ください。総合医療相談については、こちらをご覧ください（<http://www.bio-c.jp/introduction/introduction.html#c02>）。

Q 費用はいくらかかりますか？また支払方法を教えてください。

A 治療費用については、こちらをご覧ください（<http://www.bio-c.jp/information/cost.html>）。

お支払は、現金以外に、各種クレジットカード、デビットカードもご利用いただけます。

Q 治療を受けるための準備（必要書類）について教えてください。

A 一般的な説明のみ聞きたい場合は、必要書類がなくてもご相談は可能です。

患者様の状況について説明を希望されたり、どのような治療が可能なのかなど詳細なご相談を希望される場合は必要書類をご用意いただいた方がより詳細にご説明が可能です。資料を主治医に頼みづらい、どう話したらいいかわからないという方は、お電話にてご説明させていただきます。準備（必要書類）については、こちらをご覧ください（<http://www.bio-c.jp/introduction/introduction.html#c03>）。

Q 高齢ですが治療はできますか？

A 治療は可能です。これまでに、80代以上の方、90代の方に対しても免疫細胞療法や温熱療法の治療を行ってきました。詳細はこちらをご覧ください（http://www.bio-c.jp/results/results_it.html#age）。

高齢の方が安心してご来院いただけるような工夫もしています。

詳細はこちらをご覧ください（<http://www.bio-c.jp/etc/80.html>）。

Q 先進医療の対象になりますか？

A （保険会社に示される特約等の）先進医療の対象にはなりません。

先進医療とは、医療内容が同じでも医療機関として一定の施設基準をクリアした施設のみが、対象施設として認可を受けることができます。専門施設であってもクリニック等ではほとんど該当しません。先進医療を実施している医療機関の一覧はこちらをご確認ください

（厚生労働省HPより <http://www.mhlw.go.jp/topics/bukyoku/isei/sensiniryoku/kan02.html>）。

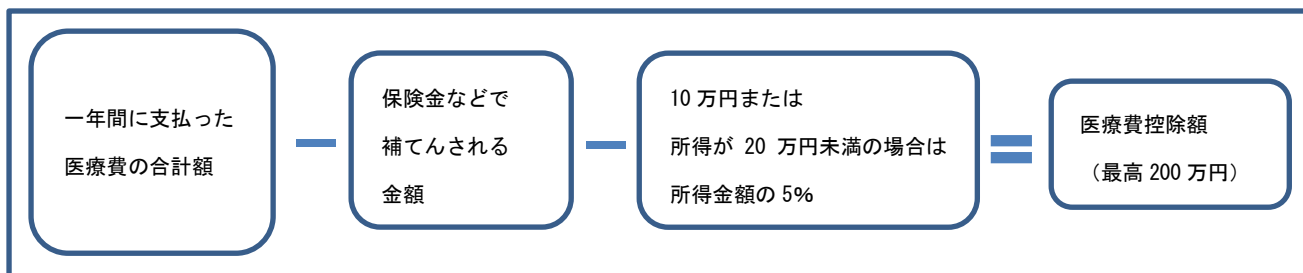
Q 生命保険や損害保険などで利用できるものがありますか？

A セコム損害保険株式会社『自由診療保険メディコム』の協定病院となっています。

その他一般がん保険の場合、ご加入されている生命保険の契約内容により異なりますので、ご加入の保険会社へご確認ください（先進医療特約は、先進医療実施医療機関でないため、ご利用になれません）。

Q 医療費控除の対象になりますか？

A バイオセラクリニックの治療費は医療費控除の対象になります。医療費控除を受けるためには、税務署に確定申告書を提出しますが、その際、領収証が必要となりますので、大切に保管して下さい。詳細は、管轄の税務署へお問い合わせ下さい。



Q 高額療養費の対象になりますか？

A バイオセラクリニックの治療費（“自由診療”による治療費の部分）は、高額療養費の対象にはなりません。高額療養費制度は“健康保険”の制度の一つなので、健康保険の対象外となる自由診療は適用外となります。

免疫細胞療法

適応、治療の時期、併用

Q どんながんでも治療を受けられますか？

A 白血病や T 細胞型悪性リンパ腫などの血液以外の固形腫瘍（がん、肉腫）が対象です。悪性腫瘍の患者様を対象にしているため、健康な方の病気の予防目的での治療は原則行っておりません。またエイズウイルス（HIV）陽性の方は、治療をお受けすることができません（エイズウイルスは、特殊な条件をクリアした設備でないと取扱いができないためです）。

Q 免疫細胞療法を受ける際は、現在かかっている担当医の了解が必要ですか？

A 主治医の先生に了解を得ていただき、主治医の先生との協力のもとで行う形が理想です。そうは言っても主治医の先生に伝えるのが難しいという患者様もたくさんいらっしゃいます。何かお困りのことがございましたら、お電話でお問い合わせください。

Q 免疫細胞療法にはたくさん種類がありますが、何を受けたいのでしょうか？（何が自分にあっているのでしょうか？）

A 免疫細胞療法はご自身の免疫を上げるための治療であり、すべての治療が患者様のもつ免疫を上げることができます。何を受けたいというより、どんな治療が可能で、その中で治療手技的な問題、経済的負担の問題、肉体的負担が問題ないかといった点を考慮しながら可能な範囲の治療を受けていただくこととなります。

Q これから標準治療（抗がん剤、放射線）をやる予定ですが、免疫細胞療法にも興味があります。民間療法もたくさんあるので、正直何がいいのかわかりません。どう考えたいのでしょうか。

A たくさんの治療がありますので、不安になられると思います。免疫細胞療法や温熱療法だけでなく、標準治療についても考慮し、総合的にお話をさせていただきます。標準治療と併用して行う場合もあれば、標準治療が終わってから行う場合もあります。まずは、一度ご相談にいらしてください。早めにご相談いただければ、抗がん剤や放射線治療の前に、細胞をとっておき、保存しておく方法も選択できます。

Q 末期で、余命数カ月、と言われましたが、治療は可能でしょうか。体力はどの程度必要でしょうか。

A 目安として、通院できる程度の体力がある方以上が治療の対象とお考えください。車椅子でのご来院は可能です。余命数カ月という患者様からのお問い合わせを数多くいただいておりますが、実際に治療を受けられている方はたくさんいらっしゃいます。

Q 手術したばかりでがんは取りました。再発予防で治療を受けた方がいいのでしょうか？

A バイオセラクリニックで考えている免疫細胞療法の目的の一つに、手術後の転移・再発の予防があります。進行がんでは、肉眼的にすべて切除したのちに、遺残したがん細胞（肉眼的には見えないが、残ってしまったがん細胞）が原因で、数か月から数年以内に転移・再発することがしばしばおこります。そこで、まだ増えてくる前の手術後の早い時期に免疫細胞療法で治療することによって手術後の転移・再発を減らすことができるのではないかと考えられます。

Q 抗がん剤治療（または放射線治療）を受けていますが、免疫細胞療法は受けられますか？

抗がん剤治療を行う前に採血した方がいいのでしょうか？

A 抗がん剤も放射線治療も患者様がもつ免疫力によりその治療効果が大きく左右されます。したがって免疫細胞療法を併用することで本来の免疫力を上げ、抗がん剤や放射線治療の効果を上げることも大きな役割です。バイオセラクリニックでは、副作用が非常に強く来院できないという患者様以外は併用して行っております。利用する免疫細胞のことだけを考えれば、抗がん剤が投与される前に採血をして保存しておいた方が、ダメージを受けていない免疫細胞なので望ましいことは事実ですが、抗がん剤が始まったからといって治療ができないわけではありません。治療中は抗がん剤や放射線などの治療を考慮した治療計画をたて、ご本人にとって最もメリットのある治療スケジュールを立案するように努めています。

Q 人工抗原を使う治療は、どうやって抗原を調べるのでしょうか？

A がんの切除手術を受けた場合は、その切除組織はまず長期にわたって一部は必ず保管されています。通常、この組織標本を利用し、免疫染色法という検査で使用可能な人工抗原が発現されているかどうかを調べます。また、がんの種類や上がっている腫瘍マーカーの種類によっては、たとえ検査が不可能な場合であっても、高い確率で予測することは可能です。詳しくは総合医療相談にて医師にお尋ねください。

Q 樹状細胞ワクチン療法を受ける場合の、準備や条件について教えてください。

A バイオセラクリニックで行う樹状細胞の役割は、がん細胞を実際に攻撃するTリンパ球に攻撃目標を伝えることにあります。しかし、その攻撃目標がわからなければTリンパ球に伝えることができません。その攻撃目標は人工的に作られたがん抗原だったり、新鮮ながん組織の分解抽出液だったりします。人工的に作られたがん抗原を利用する場合はそれと同じものががん細胞の表面になれば意味がありませんので、それがどうかを以前切除したがん組織（通常は必ず保存されています）を調べる検査をします。がん組織の分解抽出液の場合は、切除当日に細菌感染などが全くなく、ある程度まとまった量が提供されることが条件になります。また、樹状細胞ワクチン療法を行う場合には特殊な機械を使った採血を行います。この採血が安全に行える程度の身体状況であることも条件になります。

Q 樹状細胞療法は活性化リンパ球療法と併用と書かれていますが、樹状細胞療法を単独で受けるのも可能ですか。

A がん細胞を攻撃する目標を T リンパ球に教えるのが樹状細胞療法であり、樹状細胞自身はがん細胞を攻撃しているわけではありません。したがって、がん細胞を攻撃する免疫を少しでも高めるために、リンパ球に強制的に攻撃をかけさせる（活性化リンパ球療法）ようにしていることが併用する理由です（教育だけをしておいて、がん細胞には攻撃する必要を求めない場合は樹状細胞療法だけでも可能です）。

※1 回の採血で、1 回分の樹状細胞と活性化リンパ球を同時に作成します（費用面のメリットもあります）。

Q 樹状細胞療法や活性化リンパ球療法（T リンパ球療法）が効かない場合はもう方法は無いのですか？

A 樹状細胞療法にしても活性化リンパ球療法（T リンパ球療法）にしても、がんを最終的に攻撃するのはキラーT リンパ球です。しかし、T リンパ球はあくまでもがん細胞の表面にある攻撃目標であるがん抗原を攻撃します。がんは時折、T リンパ球からの攻撃をかわすためにがん抗原を隠してしまったり、またがん抗原自身を出さなかったりする場合があります。このような場合はいくら樹状細胞療法や活性化リンパ球療法（T リンパ球療法）を行っても効果はあまり無いと考えられます。

このようながん細胞にはNK 細胞や $\gamma\delta$ T 細胞などであれば可能性があります。NK 細胞はがんを見つけ出す力が無いので、直接がん部へ投与するなど、方法を工夫すれば可能性がある治療です。 $\gamma\delta$ T 細胞は利用できる方とできない方を簡単に調べるできないので、現在その方法の開発が行われています。

効果

Q がんが転移・進行して末期の状態ですが有効ですか？

A がんを外科手術で切除した後、免疫細胞療法を行うことで手術後の転移・再発を減少させることは可能かもしれません。しかし高度進行がんを治癒させることは現時点では難しいと考えます。高度進行がんに対しては、がんの進行を遅くする（できれば進行を止める）ことで、がんが私たちにもたらす症状や臓器不全（これが死の原因になる）に立ち向かっていく（がんとの共存を目指す）ことが現実的な治療の目標になります。治療に際して、副作用が少ないということは多くの施設での臨床試験の結果から明らかになっていますので、安心して受けていただけます。

治療の実際

Q 治療は入院して行うのですか？外来での治療ですか？（現在入院中ですが治療を受けられますか？）

A 免疫細胞療法は基本的に通院で行う治療です。入院中の場合は、入院先の主治医の先生の了解を得て外出することができ、バイオセラクリニックまで通院が可能であれば、主治医の先生との協力のもとで治療を行う形となります。患者様が来院できない場合は、通常治療を行うことはできません。

Q 希望すれば中止できますか？その時に費用は発生しますか？

A 免疫細胞療法では採血前であれば中止できます。キャンセル料は発生しません。

免疫細胞療法の場合、治療一回ごと採血時（処理開始日）にお支払ですが、いったん採血してしまうとその細胞処理が始まりますので、1) 採血後に患者様の都合にて治療の中止を希望された場合、2) 投与日にご来院できなかった場合などは、採血時（処理開始日）にお支払いただいた治療費は返金いたしかねます。ご了承ください。

Q 何回ぐらい治療をするのですか？

A 進行がん術後の転移・再発あるいは手術不能進行がんの患者様の場合、免疫細胞療法の目標は、まずがんの進行をできるだけ遅くしたり、止めることでがんとの共存を目指すことです。これにより現在かかえている症状が緩和・改善したり、新たな症状の出現を抑えることができたり、体調の改善が得られる可能性があるからです。

この目標をもって免疫細胞療法を行っていますが、免疫細胞療法では1回や2回だけの治療で効果が出てくることはほとんどありません。そのため、ある程度の期間治療を受けていただくことで目標に近づいているかどうかを判定する必要があります。

バイオセラクリニックでは1クール4回の治療を1単位としてがん免疫細胞療法を行います。1クールまたは2クールが終了した時点またはそれ以内であっても治療によっては第一段階の目的を達成した時点で、担当医とご相談いただき、その後の治療方針を決定しています。

Q 治療には、どのくらいの期間が必要ですか？どのくらい続けられればいいですか？（1 クールの治療の後はどのようになりますか？）

A 免疫細胞療法に治療の制限はありません。この治療をどこまで続けるのかといった決まりもないため、ある目安を持って治療の維持を考えていきます。また治療内容によってその維持の方法・目的も異なるため、医療相談時にお尋ねください。

基本的には1クールまたは2クール（4回から8回）の治療後にその状況を話し合い、継続するか、終了するかを決めます。継続する場合でもその治療ペースや頻度を変えることは可能です。また、一度終了してもいつでも再開することは可能です。

Q 痛みを伴う治療ですか？

A 1回の治療は『採血』と『投与』からなっています。

採血は活性化リンパ球療法のみの場合は病院で行われるような採血です。樹状細胞療法を行う場合は特殊な機械装置を用います。若干太めの針を使用するため、患者様の苦痛を軽減するために表面麻酔のシールを貼り、痛みを和らげるよう心がけています（通常はほとんど痛みを感じません）。

また投与に関しては、リンパ球の投与は通常の点滴を行うのと同じです（100 cc程度の点滴）。樹状細胞療法（ワクチン療法）の場合は皮内注射で1 cc弱を注入するため細胞注入時に痛みを感じることがありますが、これも苦痛を感じないような処置をし、なるべく患者様の負担をなくすよう努力しています。

Q どれくらいの量を採血するのですか？

A 活性化リンパ球のみの場合は約30 ccです（通常の病院で採血するよりやや多め程度）。

1) 樹状細胞療法の採血、2) 凍結保存したリンパ球より作製するCAT療法（F-CAT療法）で保存するための採血では、特殊な機械装置を使用します。一度採血された血液が機械の中に入り、必要な細胞（白血球）以外の細胞や血漿成分などをお体に戻すことで必要な成分を多く採取する方法を利用していますが、最終的な採血量は100 cc弱程度です。F-CAT療法の場合は、採血1回で通常8回分程度の活性化リンパ球治療ができます。樹状細胞療法の場合は、採血1回分で1回の治療（投与）に使用します。

Q 特殊な装置を用いた採血（アフエレーシス）というのは何でしょうか。

A 献血センター等で行われる成分献血で利用される装置と同じ装置です。具体的には 1) 血液を取り出して、2) その中から必要なもの（利用する白血球成分）を採取し、3) それ以外の治療に使われない部分（赤血球や血小板、血漿成分）を、またお体に戻すというやり方です。この方法で 1000 cc~1500 cc の血液の中から必要な量の白血球細胞のみを得ることができます。白血球細胞を取り出すといっても、体の中全体の白血球の 1% 以下です。通院が可能な患者様では体調が悪くなったり貧血になったりするような心配はありません。

Q 副作用はありますか？

A 今のところ発熱以外明らかな副作用は認めておりません。ただし、臨床研究のレベルの新しい治療ですから、今後新たな副作用が報告される可能性があることを十分承知していただいて、治療を開始しています。

温熱療法

Q どんながんでも治療を受けられますか？

A 局所温熱療法では眼球と脳以外のがん、全身温熱療法では全てのがんが対象となります。悪性リンパ腫は局所温熱療法、全身温熱療法ともに対象となっておりますが、白血病については治療をお受けしていません。

Q 温熱療法と呼ばれるものはいろいろあるようですが、何が違うのでしょうか。

A 身体を温めること自体は様々な効果を持ち、すべてを温熱療法と称していますが、がんに対する温熱療法の場合、がんの部分の温度をどこまであげるか、どれくらいの時間あてるかなどが重要になります。使用する機器が医療用なのか家庭用なのか、目的の温度は何度なのか、加温原理（熱源に何をを用いているのか）の違いなどに注意して比較してみてください。また、局所温熱療法（サーモトロン）のみ保険適用になる場合があります（バイオセラクリニックでは最大 6 回まで）。

Q 局所温熱療法と全身温熱療法、どちらを受けたいのでしょうか。また組み合わせる事もありますか？

A がんが1カ所に限定されていれば局所温熱療法、がんが散在する場合は全身温熱療法という目安はありますが、どちらを選択するかということは総合医療相談や、温熱相談で医師がご説明しています。また併用も可能で、局所温熱で原発部分を治療し、転移を全身温熱で治療するというような患者様もいらっしゃいます。

Q 他院での治療にあわせて、温熱療法はできますか？

A 可能です。他院で抗がん剤治療、放射線療法、免疫細胞療法を受けている方はその治療に合わせて温熱療法のスケジュールを組むようにしております。免疫細胞療法に関しては当院で温熱療法と併用すると温熱療法の料金が割引になります。他院で受ける場合は割引が効きませんのでご了承ください。

Q 1回の滞在時間はどの位ですか？

A 治療の準備や更衣も含めて局所温熱療法は約1時間、全身温熱療法は2時間半から3時間程度です。

Q 初回診察の日に治療は可能でしょうか。

A 基本的には初回診察とは別の日から治療スケジュールを組みます。

Q 治療は入院して行うのですか？外来での治療ですか？（現在入院中ですが治療を受けられますか？）

A 治療は外来で行っております。現在他施設へ入院中の患者様は、主治医の先生の許可を受けた上で通院していただくことができれば治療を行うことは可能です（バイオセラクリニックに入院設備はありません）。

心理療法

Q 心理療法は、どんなことを行うのですか？

A 心理療法では、患者様が抱えている問題について、気持ち、考え方や行動面に働きかけ、よりよい方向に修正していくことを目的としています。ストレスを軽減し、自分らしく楽しい生活を送るために、自分の気持ちや行動をコントロールする方法を身につけていきます。

Q カウンセリングでは、具体的にどのようなことをするのでしょうか？

A 患者様のお話を伺いながら、現在の悩み、ストレスや生活上の問題を整理していきます。その上で、現状をどのように改善していくか目標を決め、それに向かって具体的な作業に取り組みながら進んでいきます。また、心理検査等を実施することもあります。

Q カウンセリングでは、どんな相談内容が多いですか？

A たとえば、「毎日のように気持ちが落ち込む」、「何に対しても興味がわかず楽しめない」、「病気のことを考えると不安で眠れない」、「何をやるにもおっくうだ」など、気持ちや生活上の悩みについての相談があります。「病気や治療に関する不安を誰かに話したい」、「自分の気持ちを整理したい」といったご相談もあります。

Q リラクゼーションとカウンセリングのどちらを選んだらよいのでしょうか？

A 「リラックスする方法が知りたい」、「気持ちを落ち着ける方法が知りたい」といった具体的なご希望のある方は、リラクゼーションをお選びください。どちらにするか判断に困ったときは、まずはカウンセリングをお選びください。カウンセリングで詳しいお話を伺いながら、最適の治療法を提案させていただきます。

Q カウンセリングは、精神的な病気の人が受けるもののように感じ、なんとなく抵抗がありますがどうなのでしょう？

A カウンセリングでは「あなたが、今、困っていること」に焦点を当てていきます。つまり、カウンセリングの利用に際して、精神的な病気の有無や、悩みの深刻さは関係ありません。風邪を引いたときなど、体調が優れないときに病院で診てもらおうように、日々の生活の中でなんとなく上手くいかないこと、自分自身の中で気になっていることがあれば、お気軽にご相談ください。

Q カウンセリングは何回受ければよいのでしょうか？どれくらいのペースで通うのですか？

A カウンセリングの回数は、患者様によって、また、相談内容によって異なります。数回で終了する方もいれば、長期にわたり相談される方もいらっしゃいます。カウンセリングのペースについても、1週間に1回、1ヶ月に1回など、患者様によってさまざまです。開始当初は週1回、終了間近には数ヶ月に1回など、患者様の状況に応じて調整していくこともあります。回数やペースは、患者様のご希望や状況を考慮しながら、相談して決めていきます。いずれにしても、無理のないペースで取り組んでいくことが大切です。

Q 相談の際に家族が一緒に入ることは可能ですか？

A 可能です。ただし、相談を希望した患者様が、ご家族の同席を希望されない場合は、同席をお断りさせていただくこともあります。

Q あまり話すのが得意ではないのですが、大丈夫でしょうか？

A まったく問題ありません。何を話したらいいか戸惑ったとき、自分の気持ちや考えがまとまらないときは、無理にお話しただかなくて大丈夫です。自分のことをお話しするのに慣れていない方でも、カウンセリングを重ねることで少しずつ話せるようになります。心理士が主体的に話を進めていくこともありますので、心配はいりません。

Q 心理療法の担当者は、毎回変わるのでしょうか？

A 毎回、同じ心理士が担当させていただきます。

〒160-0022 東京都新宿区新宿 5-6-12 MF 新宿ビル

医療法人バイオセラ会 バイオセラクリニック

03-5919-1762